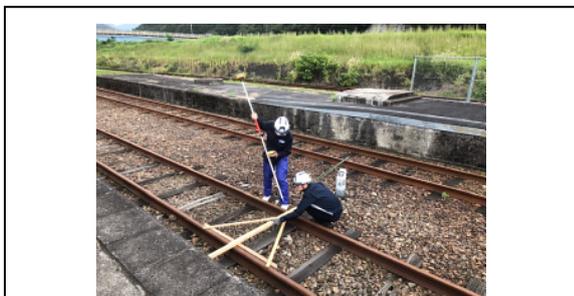


## 寄附者設定テーマ事業 事業報告シート

団体名	特定非営利活動法人江の川鐵道
テーマ名	科学技術の振興
事業名	旧 JR 三江線メタバース構想推進事業
事業費(うち助成金額)	699,400円
ネーミングライツ(該当があれば)	※NPO活動推進室記載箇所



### ■事業目的（250文字程度）

- ・廃線となった地域に賑わいを創出するとともに、廃線から5年以上が経過し、歴史に埋もれていく三江線の歴史を後世に伝えていくこと。
- ・廃線後5年が経過し、橋梁等を中心に撤去工事が進んでおり、三江線建設の技術や歴史等を記録保管しておかなければ、記録と記憶が失われ、伝えるべき歴史が消えてしまう可能性がある。
- ・三江線の鉄道遺構を適切に保存していくためにも NPO 法人江の川鐵道が事業継続できることが望ましく、メタバース事業を展開することで、ファンの増大、新たな収入源の確保が必要になっている。

### ■事業内容（350字程度）

- ・旧三江線（江津～三次間、108キロ）を、所有者（JR西日本、江津市、川本町、美郷町、邑南町、安芸高田市、三次市）の許可を得て、現地での測量調査を行う。10日間かけて、線路沿いに設置された境界杭などを基点に、鉄道施設（レール、橋梁、トンネル、駅舎、信号や踏切等の設備）の3次元の座標軸を取得する。これらを点群データとして記録保存する。（写真左）
- ・旧三江線の座標軸測定調査事業に、映像撮影技術を持つ江の川鐵道のカメラマンが同行し、360度カメラ等を用いて、座標軸に重ねられるように動画、写真を撮影し、記録保存する。（写真右）
- ・座標軸の三次元データを元に取得した点群データと、2の事業で取得した映像・写真データを統合し、メタバース空間の創出に有効なデータに統合し、来年度のメタバース構築につなげる。また、JR西日本や島根県技術士会と、完成したデータを基に新規事業構築について協議を行う。

### ■事業成果と今後の展望（450字程度）

本事業において、旧三江線全線の三次元座標軸を取得し、地図情報を備えた写真をストックすることができたことを踏まえ、三江線メタバース資料館の構築に向けた基礎的な情報を取得することができた。今後、座標軸と写真を組み合わせることで、三江線のメタバース空間を創出すると共に、JR 西日本と連携して、三江線を走っていた車両の画像データの使用権を取得して、メタバース空間の中で、三江線が走っていた時代の風景を再現する。続いて、AR 技術を導入して、現地に訪れたファンが、線路上を背景に撮影するとメタバース空間内の車両データなどが映り込むサービスなどを開発する。さらに、三江線が走っていた現役時代の写真データを写真家等から取得し、三江線の写真をメタバース空間内に設けた資料室に入って自由に見られたり、自ら撮影した写真を投稿できたり、さらに、写真を撮影した人同士がメタバース空間内でコミュニケーションがとれたりするようなサービスの開発を目指す。こうした一連の取り組みにより、廃線跡に走らせているトロッコなどの事業と連携して、旧三江線エリアへの来訪客の増加を目指す。